

事故防止のポイント



9 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありますか。

家具の引き出しを開け閉めして指をはさんだり、引き出しを出してよじ登りタンスが倒れてはさまれたり。サッシのかぎの部分は子どもの背たけからいってもいたずらしたくなる所なので、簡単に開けられないようにしておきます。気密性の高いサッシにはさむと、ひどい場合は指を骨折してしまいます。

引き出しやドアを開け閉めして遊ばせない。サッシの溝には消しゴムやラップの芯などはさんで防止する。

11 ピーナッツやあめ玉などは子どもの手の届かない所に置いてありますか。

子どもの口の大きさは最大直径32mmなので、小さな物は口の中に入ります。おもちゃが口の中に入ってしまったら、食べ物が飲み込めないで喉につかえてしまったりします。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさぐ大きさで、気管に入っているのに気がつかないと、肺の炎症を起こしてしまいます。

ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えない。
食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせる。

13 子どもが浴室のドアを開けて一人で中に入ることがありますか。

知らないうちに浴室に入ってしまう、浴槽をのぞきこんで溺れてしまった事故が起きています。浴室のドアは開けっ放しにせず、外鍵をかけて自由に入れないようにしておきましょう。

子どもが簡単に浴室に入れないようにドアには外鍵を付ける。子どもだけで浴室で遊ばせない。

15 車の発進・車庫入れ・乗り降りのときには、子どもの安全を確認していますか。

子どもが車の前後にいることに気づかず、車を発進したりバックさせ、子どもをひいてしまう事故が起きています。また、車の乗降時に先に降りた子どもが走ってきた車にひかれるといった事故も起きています。

車の発進・車庫入れ・乗り降りのときには、周りの状況に気を付け、子どもの安全を確認する。日ごろから子どもに車のまわりで遊ばないように教えておく。

10 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

子どもはなかなかじっと座ってられません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、抱きかかえて乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していなくても、衝突による力は子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。



車に乗せるときは、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかりとめておく。

12 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。

お母さんがシャンプーをしている少しの間でも、浴槽をよじ登って溺れてしまうので、子どもは浴槽の外にいるからといって安心できません。掃除をしようとして浴室のドアを開け放しておいたら、勝手に浴室に入って溺水していたり、浴槽のふたを開けておいたため転落し溺れていた。入浴後、浴槽のお湯は抜いておき、浴槽のふたは入浴する直前に外しましょう。

入浴後、子どもが小さいうちは浴槽のお湯はすぐに抜いておく。浴槽のふたはたわみにくいしっかりしたものを選ぶ。

14 子どもを自転車の補助いすに乗せたまま手を離したり、そばを離れることがありますか。

自転車の補助いすに子どもを乗せたまま立ち話などでちょっと手を離している間に自転車倒れる事故があります。倒れたひょうしに子どもが道路に投げ出され自動車にひかれることもあります。また、急ブレーキをかけた時に子どもが飛び出さないよう、安全ベルトを使用しましょう。



子どもを乗せた自転車から手を離さない。